

新 編  
女 學 唱 歌

教 師 用

下

大阪開成館發行

故郷の母

大童信藏

一、戀しき故郷遠く離れて

睦びし友人そぞろなつかし

老いたる母上如何にかいます

空行く月よやおぼろうつせ。」

二、さすらふ旅路も今や幾年

なれにし山川そぞろなつかし

老いたる母上如何にかいます

とわたる雁よや思ひを運べ。」

島の波

一、岩を噛み、岩を呑み、

寄する波よ、島の波よ、

日かげ揺り、日かげ揺り、

ラ ラーラララ ラーラララ ラーラララ

ラ ラーラララ ラーラララ ラーラララ

二、岩をかみ、岩をのみ、

をぐる波よ、島の波よ、

風に散り、風に揺れ、

ラ ラーラララ ラーラララ ラーラララ

ラ ラーラララ ラーラララ ラーラララ

# 故郷の母

(生徒用九頁)

*Andantino.*

1. コ ヒシキフル ナ ト  
2. さ すらふたび ち も

ト ホクハナレテ ム ツビシトモビ ト  
い まわいくとし な れにしやまか は

ソ ジロナツカシ オ イタルハハ  
そ ぞろなつかし お いたるはは

ウ ヘ イ カニカイマ ス ソ ラユクツキ  
う ヘ い かにかいます と わたるかり

ヨ ヤ オ モカゲウツ セ  
よ や お もひをはこ へ

大君の御代や、五日の風も、十日の雨も、時にそひ、  
 其の折に適ひ、乾坤ともに、潤ひみちて、榮ゆく、  
 蒼生は一年に月に又日に、敷さへ殖えて、  
 〔根さしもかたく〕〔いよくますく〕〔盛る我が御國〕  
 〔根さしかたく〕〔ますます〕〔さかるみくに〕  
 あ、實に君が恵み、治き聖代の、しるしこそは、  
 仰がめ。  
 たなびく雲のごも、打そろひ出づる、諸船の上に、  
 日の本の光輝く  
 さかまく浪のごと、外國の寶 積みてぞあつまる  
 異船のかずはおほしや。

太平の頌

うち見やる限り、〔海にも陸にも〕いよ、榮ゆく様の  
 〔見えてあさやかに見えて〕浦安の國ぞ、いごやすけき。〕  
 あな泰き御代や、劍は鞘に、銃砲は高き閣に措き、  
 大八洲守る、益荒雄達も、やすらふ今日の静けさ。  
 海原守る、〔軍艦もならびて〕港にかゝり、〔鐘も下して〕  
 〔よそほひとさきて〕〔うかへる〕〔御國あなかしこ〕  
 あ、いざ祝へ歌へ、諸聲あげて、めでたき御代の榮を。

昭和三年五月廿五日印刷  
昭和三年五月三十日發行

新編 女學唱歌教師用(下)

定價金壹圓五拾錢

編者 成田爲三

發行者兼印刷者 三木佐助

發行所 大阪市東區北久寶寺町四丁目四十五番地

會社名 大阪開成館

大阪市東區北久寶寺町四丁目四十四番地

三木樂器店

大阪市東區北久寶寺町心齋橋通角

振替口座大阪七九番

名古屋市中區小井町

永和堂樂器店

振替口座名古屋六八七番

東京市日本橋區數寄屋町九番地

林書店

振替口座東京二三七一番

著者所有  
不許拔萃